

実行力なき軍隊は「オモチャ」の兵隊。

北朝鮮の「刈上げクン」とアメリカの「トランプ爺さん」の「脅しあい」を見ながら「口撃ばかりでさっぱり攻撃にのりださないなあ」と思っている日本人も多いのではないだろうか？

戦争なんてものはあってはならないことだ。

しかし、一触即発を繰り返す北朝鮮の「刈上げクン」とアメリカの「トランプ爺さん」の「脅しあい」は「いい加減にしろよ!」というレベル。

「そんなに戦争がしたいのならサッサとやれよ」とジレツタイばかりなのだ。

北朝鮮はミサイル開発、核弾頭の開発。これさえやり遂げれば北朝鮮の「金王朝」は安泰だ。

「核ミサイル」を持たなかった独裁者はすべてアメリカ軍に殺された。

朝鮮民族の本質は「虎の威を借る狐」

だから、北朝鮮の「金王朝」はどのような手段を講じても「核保有国になるんだ一い!」と床に転がって手足をバタバタさせている。

下痢をした子豚がみっともないデブの中豚になった。

その中豚が北朝鮮は核弾頭付きミサイル（大陸間弾道弾）を持つ核保有国になったと大見えを切った。

すると、北朝鮮のお隣の韓国は『民族として誇らしいニダ』とばかりに人道支援の名のもと、国連機関を通じて北朝鮮に800万ドルのご祝儀を出す。

間違いだらけのアメリカ

アメリカはあまりにも強かった日本軍が復活してくるのを恐れた。

そこで、アメリカへ逃げていた李承晩を朝鮮へ「大統領」とすべく送り込む。

朝鮮民族の性癖（情緒優先）は事大主義の「おさきっぱしり」。そのくせずうずうしく「朝鮮は連合国側だった」ということにしてくれと、連合軍に要求。

「それはできません」と断られると次は「日本の領土を少しくれよ」と連合軍に「オネダリ」をする、これもぴしゃりと断られる。

そこで、朝鮮民族お得意の情緒障害を発病する。床に転がりやだやだと手足を

バタバタさせるのだ。

韓国は日本の漁民を殺害して 竹島を強奪。

日本が敗戦後、連合国の「占領管理下」にあり武装解除された日本は警察権も軍隊も持てない敗戦国であった。朝鮮は日本と連合国が平和条約をむすんで「主権が回復する」とマズイ。

その前に「朝鮮の都合の良い境界線を引いて強奪しましょう」と「李承晩ライン」を引く。そのラインの中に竹島があった。

トランプ大統領の歓迎晩餐会で出されたエビが竹島で獲れた「独島エビ」である。いまなお不法占拠している竹島のエビをわざわざ国賓のトランプ大統領に料理として出すとはどういう意図か？

「嫌味」「あてこすり」の意思表示に間違いない。人の好いトランプ大統領に売春婦のおばあさんが抱きついていたが、

韓国の国賓に対する「おもてなし」が売春婦のおばあさんの抱擁なのか。さすがに売春婦を世界中に輸出している国だと恐れ入る。

さて竹島問題は現在に至るも、韓国側から謝罪も賠償の話も一切ない。

「ライダイハン」はどうなった

謝罪や賠償の話が一切ない、といえばベトナム戦争で敵と戦わず、もっぱら小さな村落を狙い、包囲して婦女子を強姦し、証拠隠滅のために皆殺しにしてガソリンをかけて村ごと焼いてしまう韓国兵士。この韓国軍がベトナム政府に謝罪や賠償を申し出たという話を聞いたことがない。

ベトナムでは韓国軍の蛮行を永く記録するために石碑に刻まれている。

韓国軍はよほど精力を持て余していたのだろうか、その他にもベトナム人婦女子を孕ませてそのまま放置してきた例が相当数ある。

「ライダイハン」というそうだがライは混血。ダイハンは大韓という意味。

「ライダイハン」は韓国軍兵士による強姦により生まれた子供。韓国軍兵士や韓国の民間



李承晩 朝鮮の独立運動家
大韓民国の初代大統領



人がベトナム人の『妻』と子供を捨てて無責任にも韓国に帰国した」ケースのいわゆる現地婚。

「ベトナム人には美人が多いので、女子は13歳～14歳でみんな慰安婦として強制的に働かされた」そして生まれたのがライダイハンと呼ばれるベトナム人女性が産んだ子供と言われている。

ベトナム戦争当時「南ベトナム解放民族戦線」が放送によって「韓国軍による拷問」や「虐殺事件」「婦女子への暴行事件」を連日報じていた。ベトナム各地での韓国軍による「虐殺」「暴行事件」はベトナム婦女子への『強姦』が最初のきっかけになった、との生存者証言がある。

戦闘終了後の治安維持期に入って、韓

国軍はようやく兵士の行動を律したが、その後も猛虎師団・青龍旅団・白馬師団などの兵士が、村のベトナム娘を強姦して軍法会議にかけられる事件が頻発した。

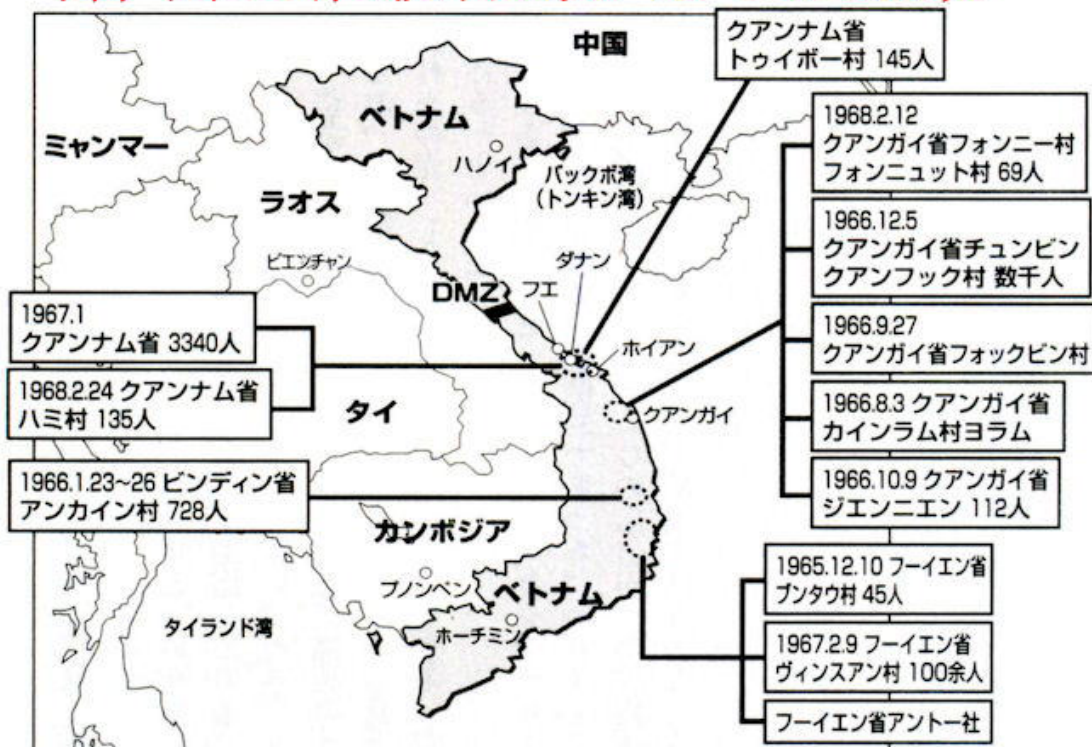
また、韓国軍の兵士がベトナム人妻と子を置きざりにして帰国したため、軍司令部が再志願させてベトナムに戻し、結婚式を挙げさせた例も伝えられている。

当時、韓国の朴正熙政権は「反共を国是」とし、「南ベトナム」「北ベトナム」が自国同様に「分断国家」だ、との「共感に訴えて」派兵を推進した。

「参加する志願兵は『男に生まれたからには、一度は戦場に赴かねば』という気風があった」ともいう。

南ベトナムに派兵された韓国軍は、2

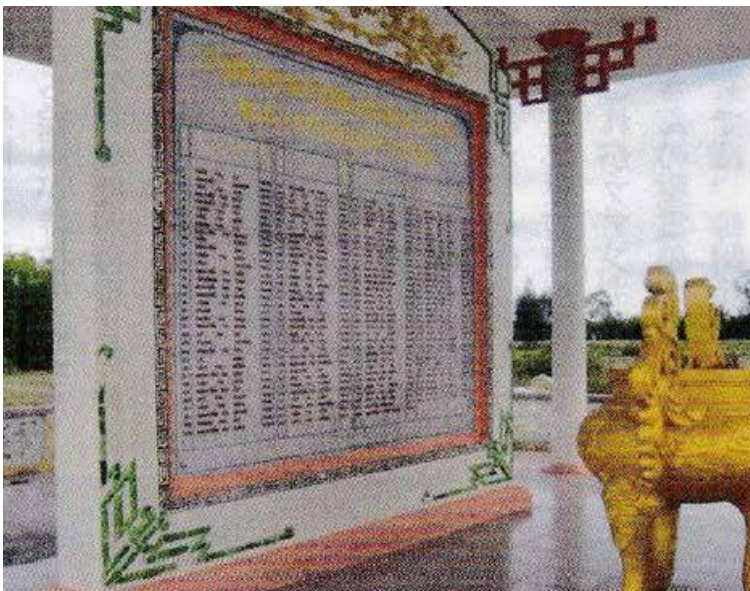
韓国軍の虐殺行為があった地域



個師団プラス1個旅団の延べ3万1千名。最盛期には5万名を数えた。また、「ベトナム特需」を当てこんだ産業資本や出稼ぎの民間人も進出し、これも最盛期には2万人近くがベトナムに赴いた。

ベトナムでは村ごとに『**『ダイハン』の残虐行為を忘れまい**』と碑を建てている。

兵士や出稼ぎ民間人の韓国本国への送金は、年に1億2千万ドルを数え、1969年の韓国の外貨収入の2割に達した。これはアメリカによる軍事・経済援助、日韓基本条約による莫大な援助と合わせて、『**漢江の奇跡**』の基礎となった。



ベトナム ハミの慰霊碑 碑文には「青龍部隊の兵士が135人を殺した。ここは血に染まり、砂と骨が入り混じり、家は焼かれ、火に焼かれた死体をアリがかじり、血のにおいが満ち満ちていた。爆風が吹き抜けると、さらに悲惨だった。破壊された家では年老いた母や父が呻きながら死に、子どもたちは恐怖におびえた。逃げた人は銃撃されて死に、子どもは死んだ母親のもとに這って行きお乳を吸った。もっとひどいのは、戦車で遺体を踏みつぶしたことである。(中略) 過去の戦場はすでに苦痛が和らぎ、韓国人がここを再訪し、恨めしい過去を認め、謝罪した。そして赦しのうに、この石碑を建てた。」と記されている。

韓国軍の虐殺行為

ベトナム戦争が終わり、南北ベトナムが統一して既に四半世紀が過ぎた。

そして韓国では永らくタブーとされてきた過去について、議論が進められている。ベトナム戦争に参戦した韓国軍によるベトナム民間人の虐殺問題だ。

最初にタブーを破ったのは、韓国のハンギョレ新聞社が発行する週刊誌『ハンギョレ21』だった。

『ハンギョレ21』誌は1999年、韓国

軍がベトナム戦争当時に起こした虐殺事件について記事を掲載した(5月6日号)。この記事を書いたのは、韓国人歴史研究者のク・スジョン。ベトナム戦争の韓国軍の残虐行為を記した「ベトナム側」の資料を入手し、韓国の市民団体とベトナム現地で検証を始める。ある地域で、猛虎部隊(韓国軍部隊)等が1か月間で1200名の住民を虐殺したという当時のベトナム側の報告を紹介しながら、生存者たちの証言に基づき虐殺の様子を具体的に描いている。

生存者の証言からは韓国軍による民間人虐殺の方法にいくつか共通した類型があったようだとする。

韓国軍の「猛虎部隊」等による 民間人虐殺の手口

- 女性や老人、子供たちを一か所に集め、機関銃を乱射。
- 子供の頭を割ったり首をはね、脚を切ったりして火に放り込む。
- 女性を強姦してから殺害。強姦しながら拷問。妊婦の腹を、胎児が破れ出るまで軍靴で踏み潰す。
- トンネルに追い詰めた村人を毒ガスで殺す……等々。

自国軍が虐殺をしていたのだという告発は嬉しいものではなかったろう。

『ハンギョレ21』誌の2000年4月27日号には、住民虐殺を行なったという

元軍人による加害証言が掲載された。戦争当時、一般住民とゲリラを区別するのは難しく、我が身を守るためには仕方なかったのだとその元軍人は述懐した。今やその行為に罪の意識をもち、韓国政府がベトナムに謝罪し被害者に補償することを望むという声も伝えられた。

アメリカ『ニューズウィーク』誌が「暴かれた英雄の犯罪」と題してベトナム戦争での韓国軍の虐殺問題を取り上げた(2000年4月21日号)。ク・スジョンらの調査を紹介しつつ、「8000人以上の民間人を殺した韓国軍の虐殺行為の数々」が明らかにされつつあると、7ページにわたり大々的に報じた。タブーであった虐殺事件についての報道に対し、韓国国内では激しい抗議が起きた。

2000年6月27日には、ベトナム戦に従軍した退役軍人ら2000人余りがハンギョレ新聞社に乱入しコンピュータな



どを破壊した。

彼らは「大韓民国枯葉剤後遺症戦友会」のメンバーで、国のために闘った戦友を冒瀆されたと激しく抗議したのだ。枯葉剤はアメリカ軍がベトコン追討のためにジャングルを枯らしてしまおうと無差別に散布したわけで、文句をいうなら、アメリカ軍に言うべきである。だいたい韓国軍はアメリカ軍から金を儲けようという不純な動機でベトナム戦争に参加しているわけで『ハンギョレ21』誌に逆恨みをすべきではない。

まあ、そうはいつでも「法律」よりも「モラル」よりも『情緒が最優先』という『朝鮮民族』の特殊な性癖は、いわゆる「火病体質」といういわくつきのもの。

ベトナムへの韓国軍派兵は1964年に始まり、延べ30万人以上の兵士を送り込んだ。アメリカ軍に次ぐ大派兵でベトナム戦争では約5000人の韓国軍兵士が死亡している。アメリカ軍が散布した枯れ葉剤の被害に苦しむ元韓国軍兵士は韓国にも多い、という。

ベトナム戦争当時、韓国軍総司令官だった蔡命新は、『ニューズウィーク』でのインタビューで「誰に対しても償う必要はない。あれは戦争だった」と強弁している。

韓国軍総司令官の蔡命新氏のような馬鹿は「戦争」は「戦争」、「虐殺」は「虐殺」という区別がつかないのだろう。軍には



軍の規律があり、人間には人間としてのモラルがある。

強姦してなぶり殺しにして、証拠隠滅のために皆殺し、村ごと焼いてしまえ! という犬畜生に軍人の資格はない。

アメリカ軍による「ソンミ事件」などの虐殺行為がベトナム戦争当時から国際的に批判を受けていたが、そのアメリカ軍が青くなるほどの韓国軍の虐殺行為が、韓国では長い間「沈黙」されてきた。

韓国の歴史教科書には、ベトナム戦争についての記述はほとんどなく、中学生向けの国定教科書に記されているのは「そして、共産侵略を受けているベトナムを支援するために国軍を派兵した」の約1行のみ、という。

【参考】(「被害者史観韓国を揺るがすベトナム民間人虐殺の加害責任」『SAP 10』2001年9月26日号)